

# 飲料自動販売機の メニュー入替だけで得られる効果

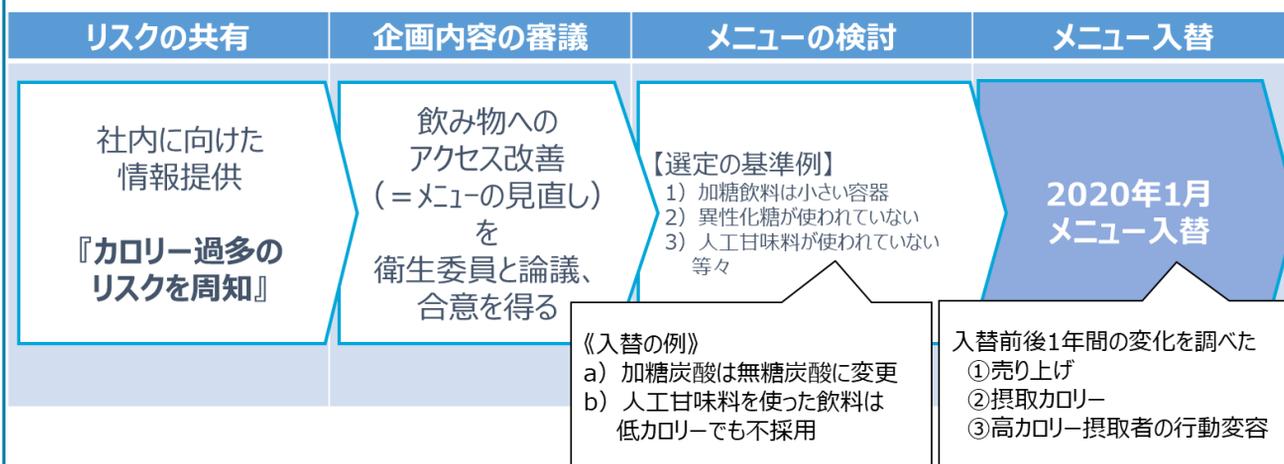
2022年11月

## 飲み物へのアクセス改善を行うことで 満足度を低下させることなく摂取カロリー 適正化に向けた行動変容は得られる

### 1. 目的

- ・当社は、会社の成長を支える社員と家族の心身の健康を重要な経営資源の一つと捉え、いきいきと働く社員が多くなることを目的に、健康課題解決に向けた取組みを当社の健康経営施策として推進している。
- ・有所見者への保健指導(重症化予防)に加え、全体に効果的なポピュレーションアプローチの必要性を実感し、その取組みとして、食べ物や飲み物へのアクセス改善を企画した。
- ・当社には社員食堂は無いため、社内の自動販売機(以下自販機とする)で購入できる飲料に着目し、社員の80%が勤務する本社の自販機メニューの入替を行い、効果を検討した。

### 2. 方法



### 3. 結果

- ・購入本数は2020年21,210本、2021年21,298本とメニュー入替による影響はほぼ無かった。
- ・平均摂取カロリー(kcal)は、26.13kcal/本から12.97kcal/本と半減。一本あたりの最大カロリーも200.0 kcal/本から123.2kcal/本と大幅に減少した。
- ・加糖飲料一本当たりの摂取カロリー(kcal)を比較したところ、99.1kcal/本から77.3kcal/本と▲21.8 kcal/本減少した。
- ・メニュー入替後の2021年の総購入本数の内83.3%(17,749本/21,298本)が無糖飲料になり、加糖飲料が26.4%(5,610本/21,210本)から16.7%(3,549本/21,298本)に減るといふ大きな変化がみられた。
- ・なお、本取組みによる自動販売機利用者の満足度の低下は見られない。



図1 入替前後の種類・売上の内訳（無糖）

飲み物	カロリー (kcal)	合計（本）		差分
		2020年	2021年	
水500ml/600ml	0.0	1,229	1,408	179
清涼飲料水（無糖）500ml	0.0		433	433
日本茶（ほうじ茶）280ml	0.0	899	1,141	242
日本茶（麦茶）550ml	0.0	1,264	775	▲ 489
日本茶（緑茶）280ml/340ml	0.0	842	838	▲ 4
日本茶（緑茶）430ml/555ml	0.0	1,488	1,634	146
無糖紅茶 430ml/550ml	0.0	2,888	3,835	947
無糖コーヒー 185ml/270ml	0.0	3,475	3,824	349
無糖コーヒー 600ml	0.0	1,485	1,439	▲ 46
無糖炭酸 450ml/480ml/500ml	0.0	2,022	2,422	400

図2 入替前後の種類・売上の内訳（加糖）

飲み物	カロリー (kcal)	合計（本）		差分
		2020年	2021年	
コーヒー（砂糖・乳入り）	51.8～81.2	2,291	824	▲ 1,467
加糖紅茶	44.8		535	535
加糖紅茶（レモン）	78.4～89.6	72	531	459
加糖紅茶（オレンジ）	124.7	315		▲ 315
紅茶（砂糖・乳入り）	31.45～100.0	268	85	▲ 183
紅茶（砂糖・乳入り）	106.4～190.0	556	922	366
清涼飲料水（加糖）	80.0～200.0	1,324		▲ 1,324
加糖炭酸	112.0～154.0	247		▲ 247
経口補水液	35.0	38	36	▲ 2
スープ	77.4～81.6	37		▲ 37
野菜ジュース	117.6	136		▲ 136
フルーツジュース	123.2～124.0	314	158	▲ 156
トマトジュース	37.0		129	129
汁粉	137.0	20		▲ 20

## 4. 考察と今後の課題

- ・事前の周知を行ったことでメニュー入替による混乱はなく、入替による満足度低下も見られない。
  - ・購入実績から自販機で購入した飲料の摂取カロリーは確実に減少していること（一本当たりの摂取カロリー▲13.16kcal、加糖飲料に限定して▲21.8 kcal/本）、アンケート調査においても、主観的な購入本数や満足度の差は見られず、メニューを入れ替えても購入意欲が減少するとは言えないことから、飲料による摂取カロリーの抑制に効果があったことが示唆される。
  - ・一方、加糖紅茶が前年比679本増、紅茶（加糖・乳入り）が前年比512本増となり、加糖飲料の購入ニーズも一定残り続けている。摂取カロリー抑制のためにメニューから加糖飲料を完全に排除することが良いとも言えず、メニューに残す際には今回のように容量を小さくするといった工夫が必要である（メニュー入替以降に自販機を利用しなくなったとアンケートで回答したのは1人/80人）。
  - ・なお、購入本数に影響はなかったが、入替え時に、飲料メーカーの仕様変更等により人工甘味料や異性化糖が含まれる飲料がメニューに入る結果になった。
- 継続するためには、選定基準をどのように設定して実行・継続していくのか、一定の作業が発生する。